東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

# ヨーロッパ地誌学習の中学校・高等学校での連携と発展：「地理総合」に向けた学習内容の検討と整理（授業実践報告）



| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2022-04-06<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En): Europe, EU, Junior and Senior High School<br>作成者: 青柳,章一<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | http://hdl.handle.net/2309/00173801 |

学芸地理 77 号 2021 年 pp.70-89

# ヨーロッパ地誌学習の中学校・高等学校での連携と発展
## ―「地理総合」に向けた学習内容の検討と整理―

青柳　章一*

**キーワード**：ヨーロッパ地誌，EU，中高連携，教科書分析，地理総合

## Ⅰ　はじめに

2022年度から高等学校で必履修科目となる「地理総合」が新設され，地理関係者から大きな期待が寄せられている．一方で，地理が再興あるいは復活するか否かは魅力的なカリキュラムや授業を提供できるかが大きく問われる．（大野・竹内，2021）

平成29（2017）年3月に告示された小・中学校の学習指導要領，平成30（2018）年3月告示高等学校学習指導要領（以降，新学習指導要領と記す）では，資質・能力が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3点に整理され，小学校から高等学校までの連続した「社会事象の地理的な見方・考え方」が提示された．地理的な見方・考え方は①位置や分布②場所③人間と自然との相互関係④空間的相互依存作用⑤地域にまとめられ，新学習指導要領に「地理総合」をはじめとする地理学習において，どのような内容と関連しているかが明記されるようになった（井田2021）．

筆者の勤務校は小学校から大学までの一貫教育における中高一貫校である．進学のための受験勉強にとらわれず，全教科で主体的な深い学びによる探究的な学習が行われてきた．

1992年の開校以来，中学と高校の連続性と発展性をふまえたカリキュラムを設定し，高校1年で地理Aを必修とし，高等部卒業までに全生徒が地理を履修してきた．

本稿では中学，高校の学習指導要領が改訂された機会をとらえ，空間的相互依存作用に着目したヨーロッパ地誌の学習について中高の連続性，学習内容の深化・発展を検討することを目的とする．また，「地理総合」の主題学習においてヨーロッパを事例とする授業についても検討した．

研究方法として，中学のヨーロッパ州と高等学校地理Bでのヨーロッパ地誌の学習内容を整理する．また，中学校で2021年度から使用が始まった教科書のヨーロッパ州の単元の記述を分析し「地理的な見方・考え方」を重視した活用のしかたを検討する．

### 1．ヨーロッパの理解を深めるための視点

ヨーロッパに対して中高生は，フランス料理に象徴される美食，ファッションブランド，サッカーなどの情報から形成されたポジティブなイメージを持つことが多い．また，イギリスのヨーロッパ連合（以降，EUと記す）離脱をヨーロッパのトピックとしてとらえる生徒もいる．

中学のヨーロッパ州の学習では「なぜ，ヨー

* 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部（学部37期，院23期）

ロッパはEUとして統合を進めるのか」という問いを立てて地域の特色や変容，課題について考察する．高等学校では統合の理念や課題が生じている背景からヨーロッパの地域的な特色や地域の変容の理解を深め，国際社会における今後の在り方を考えていく端緒とする．

上記をふまえ中高生が抱いている一面的なイメージを越えて，ヨーロッパの理解を深めるのに必要な視点の検討が必要である．ヨーロッパの理解について，加賀美は継続的な研究を通じて次のように重要な点を指摘している．

今やヨーロッパの国々は単独ではありえず，相互に連携し，政治や経済の問題もEU加盟国全体で対応する体制にある（加賀美2011）．政治的にも経済的にも世界的な発言力を高めようとするEUにとって統合は不可欠であり，国境の人やモノの移動の自由化や共通通貨ユーロの導入，欧州議会などのような国家間の高い密度の連携を見る限り，EUほど緊密な関係を結んだ連合体はほかにない（加賀美2020）．EUに着目したヨーロッパ理解がある一方で，EUを含めたヨーロッパをとらえる視点が必要．共有されるヨーロッパらしさを確認できる一方で，依然として大きな経済格差があり，地域ごとに異なる個性ある文化や価値観も見いだせる．グローバル化とローカル化，統合と分化，均質化と多様化といったさまざまな動きが共存し，拮抗する（加賀美2019a）．

ヨーロッパ地誌理解のポイントとして①地域間の格差拡大②地域の個性が強まる理由と影響③ダイナミックな地域変化をとげつつある社会義体制からの変化にさらされた地域の変容からとらえることを挙げている．（加賀美2014）

イギリスのEU離脱の理由と離脱によるEUの変化について，EU加盟国は国単位では得難い利益を期待しており，どんな利益が得られるかが加盟の決め手となる．したがって，デメリットが大きくなれば離脱の動きにつながる．EUは国の枠組みを超えたEUへの帰属意識を高めることを期待したが，政治統合に消極的で経済の動向に関心が高いイギリスがEU離脱を決定したと指摘している．イギリスが今後EUとどんな関係を築くのか，シェンゲン協定実施の経済力が大きい非加盟国であるノルウェー，スイスの動向，東南ヨーロッパの加盟希望国への対応といった課題の整理によってヨーロッパの理解が深まるとしている（加賀美2020）．

ヨーロッパの統合により共有化，均質化，グローバル化が進行していく中で，地域の個性が一層際立つようになった理由をふまえて今後の動向を考えることが重要であるという指摘をもとに，中学，高等学校でヨーロッパの姿を浮き彫りにできるような授業を目指したい．「統合と課題」と統合の中で際立つ「地域の個性」を関連付けて，ヨーロッパ各地の自然と人間の暮らしを結び付ける地誌の学習が重要な役割を果たすと考える．

地誌学は地域や世界の枠組みに即して，多様な現象に着目しながら地域の姿を正確にバランスよく認識し説明する学問領域である（矢ケ崎ほか2020）．中学校・高校の地誌教育の意義について荒井（2019）は，地域の課題をとらえ，その人々の営みをその地域の枠組みで共感的に理解することを通して，多様性を尊重する寛容的な態度を育てるとともに，自己や自地域を相対化してとらえ，人間の生き方や社会の在り方について考えるとしている．

さらに，地域の特性をとらえる上で重要な自然環境の見方について検討する．小泉（1993）は日本の高山帯の地質・地形と植生を関連付け，現在の自然環境が形成されるまでの「自然の歴史」に注目して自然環境を総合的にとらえる研究を行い，世界の山地と比較することで日本の山岳地帯の自然環境の地域性，多様性を明

らかにした．さらに，一連の研究成果をもとに「山の自然学」を提唱し，自然を総合的にとらえること，自然と人々の暮らしの関係を多面的・多角的にとらえ地域の個性と豊かさを守ることに取り組んできた．岩田（2018）は地球の自然を構成する要素のつながりから地球システムを解明する「統合自然地理学」実践の重要性を述べている．身近な自然を観察し，世界と比較することで自分たちを取り巻く自然のしくみや関わり方を考える視点が必要である．

筆者は地誌学習において，「自分がその地域の一員だったらどうするか」という当事者意識をもって地域の特色を考える姿勢を持たせるよう留意してきた．ある地域の自然や人々の暮らしを観察して「なぜ，ここにあるのか」「なぜ，こうなっているのか」「他の場所では，どうなっているのか」「この先，どうなるのか，どうすべきか」という問いを見出し，事象を総合的にとらえて，それぞれの関係を解き明かしていく授業づくりを心掛けてきた．

## 2．ヨーロッパ地誌学習の実践例

EU統合と課題が主題の中学・高校の授業実践からヨーロッパ地誌学習の方向性を検討する．

### 1）中学校　世界の諸地域

EUの統合と分離の動きに注目した実践として，大谷（2021）は「EU加盟国は様々な違いがあるにも関わらず，なぜ国を超えてまとまろうとしているのか」という主題を設定し，イギリスのEU離脱問題を取り上げた．EUの理解にはイギリスの離脱によって見えてきた他の加盟国やEU国内の独立・分離の動きも視野に入れて指導することが必須と指摘している．日下部（2020）は民族，言語，宗教から文化の共通性と，共通性の中にみられる多様性に注目した．EUが経済優先の組織ではなく平和のための体制であるという概念の再認識の必要性を指摘している．金澤（2020）は観光に注目して，EUの構成国の変化と分離や独立の動きを考察した．

特定の国や事象からEUの特色をとらえるアプローチとして，坂田・黒川（2020）はルクセンブルクの国民一人あたりのGDPからヨーロッパの空間的相互依存作用について考察した．荒井（2019）はヨーロッパのクリスマスを導入に用いてEU統合を農業，観光，環境保全，地域格差から総合的に考察する実践を報告している．

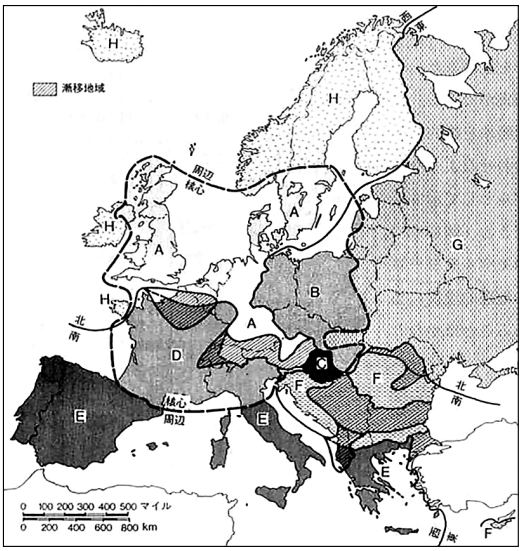
### 2）高等学校　地理B

高等学校について地理Bにおける地誌学習の実践例に注目した．高等学校でも主体的・探究的な学習方法（アクティブラーニング）によりEUの統合と課題の学習が報告されている．

藤田（2008）は現代の情勢を理解するために空間軸と時間軸を密接に関連付けた学習を行い，第二次大戦以降のヨーロッパ史を概観し理解を深めるとともに地理歴史科，公民科との連携を図った．松浦（2014）はEU加盟国の資料の読み取り，関連付けをワークショップ形式で行った．久保（2017）はグループワークとジグゾー学習でイギリスのEU離脱問題を扱った．

中学・高校とも「統合と課題」を主題とし空間的相互作用に着目してヨーロッパの特色と世界との結びつきを考える授業が展開されている．藤田が指摘するように歴史的な視点からの考察によって課題が生じる背景の理解が深まる．

ジョーダン．T．G．は『ヨーロッパ文化』（山本・石井訳1989）で，多様な指標を総合的に分析して1980年代のヨーロッパの地域区分を行った（第1図）．東西冷戦下と現在を比較すると「核心地域」とされる地域はその地位を維持し続けてEUを牽引している．東ヨーロッパの旧社会主義国をEU加盟国の拡大と重ね合わせると格差の背景が浮かび上がる．ジョーダンは




凡例
Ａゲルマン＝新教徒＝工業核心地域　Ｂ共産主義＝工業核心地域
Ｃマジャール人あるいはハンガリー人核心地域
Ｄフランス＝イタリア工業核心地域　Ｅ地中海半島部の周辺地域
Ｆバルカン周辺地域　Ｇソ連の周辺地域
Ｈケルト＝ゲルマン周辺地域

第１図　ヨーロッパの地域区分
（ジョーダン. T. G. 山本・石井訳（1989）『ヨーロッパ文化』より）

「ヨーロッパは地理的に多様であり，かつ一つである」という言葉で著書を締めくくっている．

井田（2021）は「地理総合」における地理的な見方・考え方に着目した学習として，EUは空間的相互作用に着目した学習の典型例となる．

EUとして一体化することによりEUが世界の国々や地域と相互に依存することにより，経済的により発展し，地域間の交流が深まるといった概念が導けると指摘している．ヨーロッパ地誌の学習を通じた持続可能な国際理解・国際協力の在り方を検討していきたい．

## Ⅱ　中学校地理的分野の実践と教科書分析

中学校地理分野の学習内容は高等学校での「地理総合」，「地理探究」の基礎となるだけでなく，他教科の学習や社会生活のあらゆる場面における国際理解や地球的課題を考える上でも重要な見方・考え方を培う役割を担っている．中学校・高校でそれぞれ主題として何を取り上げるかは，生徒の既得知識や発達段階をふまえて考えるべきである（荒井2021）．勤務校は帰国生の比率が高く，日本の小学校の社会科を履修していない生徒もいる[1]．多様なバックグラウンドを持つ生徒が同じスタートラインから学び始められるように配慮している．世界と日本の基礎的な知識と地理的な社会的事象の見方・考え方の基礎を身に着けることを目的として中学1，2年生の2年間で地理分野を履修している．ヨーロッパ州の学習はアジア州の学習を経た後，アフリカ州の前に取り組む．ヨーロッパ諸国の世界進出とその影響を他地域と結び付け，地域統合の在り方を主題にした学習を行った．

新学習指導要領により改訂された教科書が2021年度から使用が始まった．学習指導要領の変遷を確認して教科書の分析を行い，「地理総合」につながる中学校の地理学習について検討した．

### １．2019年度　中学２年生の実践

2019年度の中学2年生の学習過程を第1表に示す．ヨーロッパについては単元を貫く問いとして「なぜ，ヨーロッパでは統合が進むのか」を設定した．ヨーロッパ州の導入は，地図からEU加盟国を確認しヨーロッパの国が一つにまとまろうとしている理由を予想した．既習事項として，ヨーロッパ州は地図帳では大きく描かれるが，実際には狭い範囲に多くの国があり，それぞれの国は面積，人口，経済の規模が小さいことがある．ヨーロッパ諸国がまとまることのメリットを認識した上で，ヨーロッパに共通する要素と言語や宗教から地域性をとらえた．言語や民族が異なり多様な個性を持った地域が統合するには，どんな苦労や課題，工夫が

あるのかを考え，EUによる統合が進むヨーロッパの特色をとらえた．そこで，①ヨーロッパ州の自然と人々の暮らしには，どのような特色があるか②EUとして統合することで，どのようなことができるのか③統合が進むことで出てきた課題には，どんなことがあるかといった問いを設定し，自然環境，文化，産業，EUの歴史，課題について多面的，多角的な考察を行った．

EU統合について経済的な面が強調されがちだが，第二次大戦後からの歴史的経緯にも触れ平和を希求する統合の理念についても確認した．

地球的課題の学習テーマとしてEUの環境問題への積極的な取り組みを日本と比較し，持続可能な社会づくりにつながる行動を考えた．イギリスのEU離脱問題については，資料集のトピックから理由を読み取る学習活動となった．

授業は，毎時間３～４人のグループワークで

**第１表　2019年度中学２年生　世界の諸地域　ヨーロッパ州の学習過程**

| 時数 | 各時の主題 | 学習項目 | 学習活動・問い |
|---|---|---|---|
| 1 | ヨーロッパをながめて | 1）ヨーロッパ州の範囲 | アジア州，アフリカ州との境界を地図で確認 |
| | | 2）ヨーロッパの面積と人口 | ヨーロッパの国ぐにの統合が進む→EU加盟国を地図で確認 |
| | 「なぜ，ヨーロッパ州ではEUとして統合が進むのか」 | | |
| | | 3）ヨーロッパの文化の共通性と多様性 | 民族・言語・宗教を表にまとめる．→境界の場所でどんなことが起こるか |
| 2 | ヨーロッパの自然環境 | ①ヨーロッパ州の自然と人びとの暮らしは，どのような特色があるか | |
| | | 1）気候の特色 | 気候の分布域を確認．緯度が高いのに温暖な理由 |
| | | 2）地形の特色 | 運河の発達と河川．リアス海岸とフィヨルド．氷河期のヨーロッパを見てみよう |
| | | 3）人々の暮らしとの結びつき | 窓の大きさと形，食べ物，伝統的な衣服の特色と自然環境の関連を考える |
| | | ②EUとして統合することで，どんなことができるのか１…産業の変化から考察 | |
| 3 | ヨーロッパの農業 | 1）農業地域の分布 | 農業の種類を確認し分布図に着色 |
| | | 2）ヨーロッパの農業の特色 | 自然環境との関係に注目してそれぞれの農業の特色をまとめる |
| | | 3）農業の分布から暮らしを考える | ヨーロッパの国に共通すること，国や地域の特色が現れていること |
| 4 | ヨーロッパの鉱工業 | 1）ヨーロッパの鉱工業の歴史 | 産業革命と製鉄，機械工業の発展．古い工業地域はどんなところに発展したか |
| | | 2）第二次大戦後の工業 | 工業国ドイツの復興と古い工業地域の衰退．新しい工業地域の発展 |
| | | 3）ヨーロッパの統合の進展と工業 | 先端産業と新しい工業地域の発展．統合を象徴する航空機産業 |
| 5 | EU統合 | 1）ヨーロッパ統合の歴史 | 領土や資源をめぐる長年の争いから平和を守るには，2004年以降増えた加盟国とは |
| | | ②EUとして統合することで，どんなことができるのか２…統合の利点のまとめ，人々の生活の変化 | |
| | | 2）EU統合でできるようになったこと | 働き方，買い物は統合前と比べてどのように変化したか |
| | | ③統合が進む中で多くの課題が生じている．どんな課題か．なぜ課題が発生しているのか | |
| | | 3）加盟国の拡大と経済格差 | 観光客と外国人労働者の移動を比較．新しい加盟国の共通点と加盟を目指す理由は |
| | | | 共通通貨を維持することが大変な理由．共通政策と厳しいEU基準が産業を変える |
| | | イギリスのEU離脱とEUの課題の関係を考える | |
| | | 4）地球環境問題への関心が高いヨーロッパ | 国境を越えた環境問題への取り組みとエネルギー政策．環境に配慮した観光 |
| | | 2019年２月に日本とEUのEPAが発効した．それぞれの影響は．日本とヨーロッパの交流の歴史．未来の関係の在り方を考える． | |
| 6 | ロシア連邦と周辺国 | 1）ロシア連邦の領土，2）シベリアと極東ロシア，3）農業の特色，<br>4）ロシア帝国からソビエト連邦，5）ロシア連邦の成立と課題 | |
| EU加盟国の特色をまとめたプリント | | | |

の学習課題に取り組む．意見交換をしながらワークシートを作成し，グループの考えを発表してクラスの考えを共有するアクティブラーニング的手法を取り入れて行った．

評価は話し合いの様子，ワークシート，発表，定期考査にて行った．

EU 加盟国は統合することの意味やメリットは共有していても，経済格差や地域の独自性による立場の違いから統合への期待は異なり，考えをまとめることが難しい．異なる立場の人の意見を客観的に聞くこと，合意形成のための歩み寄りといった社会のさまざまな場面で遭遇する人間関係を築く上で大切なことを思春期の子どもたちが学ぶ機会としても生かしたい．

## ２．学習指導要領におけるヨーロッパ州の（内容の取扱い）の変遷

中学校地理分野は2021年度より新学習指導要領により改訂された教科書を用いた学習が始まった．中学校地理分野における世界の諸地域の学習は2008年版から主題学習が導入されている．平成21年版学習指導要領のB世界の様々な地域（内容の取扱い）におけるヨーロッパ州の主題例として，「EU 加盟国では，政治・経済的統合が人々の生活にどのような影響を与えているか」という問いを立て，EUの発展と地域間格差の実態をとらえ地域的特色を理解することが示されている．

新学習指導要領解説では．「EU はどのような経緯でその構成国を変化させてきたのか」，「EU の構成国内で，なぜ分離や独立などの動きが見られるのか」などといった問いを立て，多面的・多角的に考察して，国家間の結び付きに関わる一般的課題とEU における地域特有の課題とを捉えることが示されている．

平成21年版学習指導要領制定時からの社会情勢の変化によって，加盟国の増加による経済格差の拡大，外国人労働者，移民，難民の受け入れ，分離，独立の動きといった課題が顕在化し，単に「統合による変化」という視点だけではヨーロッパ州の地域的特色や国家間の結びつきの課題をとらえきれなくなった．「分離・独立の動き」といった「統合」とは反対の出来事に目を向け，より多面的・多角的な考察を行いヨーロッパ州の特色や課題をとらえることを目指していることが読み取れる．

## ３．中学校地理分野ヨーロッパ州の教科書分析

新学習指導要領では「見方・考え方」，「知識・技能，思考力，判断力，表現力等」が単元ごとに具体的に示されている．本稿では4社の2021年度から使用が開始された中学校社会科地理分野教科書についてヨーロッパ州の単元の記述を比較し，今後の学習の資料としたい．

各社の教科書には，学習指導要領に示された「見方・考え方」に基づいた「単元のねらい」が冒頭に記され，見開きページごとに「見方・考え方」，「目標」，「確認」，「まとめ」，「発展的な内容」が示され，学習内容を確認できる構成となっている．また，単元ごとに，学習内容を基にした話し合いや，事象を結び付けて相互の関わりを考察する主体的な学びを取り入れたまとめのページが設けられている．4社の教科書の内容の構成と掲載資料を第2表に示した．

### 1）内容の構成

各社とも導入の景観写真と地図が掲載されたページから始まり，見開き1から自然環境を中心とした概観から本文が始まる．次に「統合」についての説明が掲載される．見開き3ではA社は持続可能な社会に向けて，B社はEUの成り立ちとその影響，C社はヨーロッパの農業，D社は統合による変化と課題という項目で事象の取り上げ方に差が表れる．B社，C社が農業，工業をそれぞれ見開きで取り上げているのに対

第２表　中学校社会科地理分野の教科書におけるヨーロッパ州の構成

| | A社 | B社 | C社 | D社 |
|---|---|---|---|---|
| 単元のテーマ<br>主な学習課題 | ヨーロッパ州では，なぜ統合をめぐるさまざまな動きが見られるのでしょうか | ヨーロッパ州では国どうしの結びつきが強まることによって地域にどのような影響が生じているか | ヨーロッパでは，なぜ国ぐにの結びつきが強まったのか | なぜ，ヨーロッパの国々は，国境を越えた統合を進めるようになったのでしょうか |
| 見開き１ | ヨーロッパ州をながめて．自然環境や文化，人口にはどのような特色が見られるか | ヨーロッパの自然環境．地形や気候にどのような特色が見られるか | ヨーロッパをながめて．自然環境や文化には，どのような共通点，多様な点がみられるか | ヨーロッパの自然環境と人びとのかかわり．自然環境や生活にはどのような特色が見られるか |
| 見開き２ | ヨーロッパ統合の動き．どのように統合が進められたか | ヨーロッパ文化の共通性と多様性．文化に，どのような共通性や多様性があるのか | ヨーロッパの統合とその課題．統合が進むことで，人びとの生活にどのような変化が起きているか | 国境を越えた統合のあゆみ．さまざまな民族が生活するヨーロッパはどのようにEUとしてまとまっていったか |
| 見開き３ | 持続可能な社会に向けて．環境問題を改善するために，どのような取り組みが行われているか | EUの成り立ちとその影響．国境を越えた結びつきが強まることにより，人びとの生活にどのような変化が見られたか | ヨーロッパの農業のいま．地域によってどのような違いや特色がみられるか | 統合による産業の変化と課題．EUを中心としたヨーロッパの産業の特色と課題 |
| 見開き４ | EUがかかえる課題．ヨーロッパでは統合によって，どのような変化や課題がみられるか | ヨーロッパの農業とEUの影響．地域によってどのような特色があり，EUによる統合によって，どのような変化が生じたのか | 国境を超える工業生産．工業はどの様に発展し，各国にどのような影響を及ぼしているか | 統合による社会の変化と課題．統合や環境問題によるヨーロッパの資源・エネルギーの変化は生活に，どのような影響をあたえているか |
| 見開き５ | アジアとヨーロッパにまたがるロシア．二つの州にまたがるロシアの特徴を産業や交通に着目して考える（ヨーロッパの国境の様子と言語の分布図の読み取り） | ヨーロッパの工業とEUの影響．工業にはどのような特色があり，EUの統合によって，どの様な変化が生じたのか | 持続可能な社会づくり．環境にやさしいエネルギーを確保するために，どのような工夫をしているか | 移民の増加と揺らぐ統合のうごき．ヨーロッパは今後もEUとして地域の結びつきを強めていくべきか |
| 見開き６ | （ふり返りとまとめ） | EUが抱える問題．統合を進めてきたEUでは，どの様な課題が生じているかヨーロッパとアジアにまたがる国，ロシア | 広い国土を持つロシア連邦．ヨーロッパとアジアにまたがるロシア連邦の特色と課題 | ヨーロッパの大国イギリスのEU離脱問題を考えよう．EU離脱を決めたイギリスあなたはEU離脱に賛成？反対？６人の異なる立場の人の意見から考える |
| 外国人労働者移民・難民に関する記述 | 口絵：地中海で救助されたアフリカ難民．見開き４外国人労働者，旧植民地からの移民，難民の受け入れヨーロッパに居住する外国人の出身国，移民によって変わるドイツの食文化ケバブの屋台 | 見開き６の記述．ヨーロッパ諸国における平均年収と外国人の移動ハンガリーからドイツに移住した人の話 | 学習のまとめ．地域から世界を考えようヨーロッパを悩ます移民や難民の流入 | 見開き５様々な人々が住む多文化社会．旧植民地からの移民，イスラームを信仰する外国人労働者・難民の増加 |
| イギリス離脱独立，分離についての記述 | 見開き４の写真EU離脱を喜ぶイギリスの人々．イギリスのEU離脱を喜ぶ人がいる理由を予想する | 見開き６移民・難民に対する補助金の負担増加に対する不満から離脱を決定 | 見開き２のコラム「地理の窓」なぜ，イギリスはヨーロッパを離脱したのか．拠出金の使われ方，経済格差，移民の増加から国民投票実施 | 見開き５ゆらぐEUの統合イギリスが国民投票で離脱決定．スコットランド，バスクの独立運動チェコとスロヴァキアの分離旧ユーゴスラヴィアの分裂見開き６「イギリスのEU離脱問題を考えよう」 |

導入とまとめのページを除く．各ページのタイトルと学習課題を示した．（2021年度使用教科書より筆者作成）

し，A 社，D 社は統合が進む中での変化や課題の項目で扱っている．EU 加盟国間の経済格差と人の移動に注目し，社会の変化を考える課題が設定されている．外国人労働者・移民・難民についてはA 社，B 社，D 社は文中で，C 社は学習のまとめの課題として取り上げている．イギリスのEU 離脱についての考察も発展的な学習課題として掲載されている．D 社は単元のまとめの見開きでイギリス離脱を大きく扱っている．また，地球的課題として酸性雨，資源，エネルギー問題を取り上げ，持続可能な社会づくりの具体的な取り組みを考える課題が設けられている．なお，ロシアについてA 社とB 社は1ページ，C 社は見開き，D 社は見開き2の一部として記述している．

**2）資料・図版の分析**

**自然環境と農業**

主要な都市の雨温図が示され，気候と関連付けて農業地域が説明されている．本文中で偏西風，北大西洋海流，西岸海洋性気候，地中海性気候はいずれも太字になっている．なお，地中海性気候と地中海沿岸の人々の暮らしについては温帯気候の単元で取り上げられている．

地形については単元の導入のページに地形を表した地図とアルプス山脈とフィヨルドの景観が掲載されている．フィヨルドは写真や文中の太字で示されているが，人々の暮らしとの関連やフィヨルドが分布する意味を読み取ることは難しい．フィヨルドの成因を理解するには第四紀の気候変動の知識が必要となる．この点については第Ⅲ章で述べる．

**民族，言語，宗教**

それぞれを関連付ける分布図が掲載され，ゲルマン，スラブ，ラテンという民族，キリスト教の三つの宗派が太字になっている．あいさつの言葉の分布図は知識をもとに地域性をとらえる資料として活用できる．生徒にとっても身近なクリスマスの写真はキリスト教との関連をとらえやすい．近年増加しているイスラームを信仰する人々については文中で触れられている．

**統合**

はじめに，統合の歴史，背景，統合による利点を中心とした記述と資料が掲載されている．統合による産業の変化や課題を考える準備となっている．本文中でヨーロッパ連合，ユーロが太字になっている．加盟国の拡大を表した地図，年表，ユーロ貨幣と硬貨，国境の写真が掲載され，統合によって人，モノ，金が国境を越えて行き来できるようになったことをとらえられる．人々の暮らしを紹介する資料から個人レベルでの統合の利点を実感できる．また，独自性に関連してユーロ硬貨の裏面のデザインにも注目したい．ユーロを導入していない国への言及も一部に見られる．ユーロについては共通通貨のメリットが強調され，ユーロの価値を維持する難しさやユーロ危機については触れられていない．筆者が初めてヨーロッパを訪れたときは国境を越えるたびに両替があり，ヨーロッパの国ごとの独自性を感じた（青柳1990）．また，留学プログラムの引率でイギリスを訪れたとき通貨がポンドであったことからEUにおけるイギリスの立ち位置について考えさせられた．

国境を越えた協力体制による産業の成果として航空機の生産が各社で取り上げられている．航空機産業は国際分業を可能にしたEUの政策とヨーロッパ各地の工業地域の分布と再編，交通のネットワークなど産業の歴史や地域の連携から統合の利点を多面的・多角的に考察するのに好適な事例である．

**外国人労働者・移民・難民・イギリス離脱と分離のうごき**

加盟国間の経済格差を示す資料として，一人あたりGDP，賃金のデータが示されている．地

図と組み合わせて地域差を分かりやすく読み取れる．外国人労働者の移動，拠出金と補助金の受け取り国，外国人労働者のコメントから経済格差から生じた課題を具体的にとらえられる．

イギリスのEU離脱や分離・独立運動については各社とも発展学習として取り上げている．離脱を喜ぶ人の写真や多様な立場の人のコメントから一連の学習内容をもとに考察する資料や課題が示されている．

**地球的課題**

酸性雨に対する国境を越えた取り組み，再生可能エネルギーの利用，パークアンドライド，

エコツーリズムなどが示されている．ヨーロッパ諸国の取り組みから持続可能な社会づくりに対する日本の取り組み，自分たちにできること，すべきことを考えられる．

4社の教科書から主体的な学習に結び付く資料や課題の工夫が読み取れた．これまでも，本文以外のコラムなどで見方・考え方や発展的な内容を促す記述があったが，学習目標がより具体的に示されている．教科書からの問いかけが増え，太字にマーキングして暗記というスタイルではなく，生徒が「なぜ」を考えたくなる工夫が見られる．写真や図版についても情報量の多いものが掲載されている．地理において写真は単なる記録ではなく，地域の特徴を説明し理解するために重要である（加賀美・荒井2018）．NHK for Schoolには良質な動画がたくさんあり筆者も活用してきた．動画と合わせて生徒に地理的な見方・考え方をもとに写真や図版から発見を促したい．写真から読み取る事柄を教員の説明や動画のナレーションを聞いて済ませるのではなく，生徒自身が気づいたことを地図や資料で確認するという主体的な学びとしたい．「ここに行って自分の目で確かめたい」と思う気持ちを引き出し，伸ばしていける様な学習に結び付けたい．

**3）「地理総合」への接続**

「地理総合」では，主題学習が展開される．主題について深い考察を行うには，事例として取り上げられる地域や事象について中学で学んだ基礎知識をもとに地理的な見方・考え方で社会的な事象をとらえる力を育む必要がある．

荒井（2018）は世界の諸地域の学習における価値認識の在り方をEUにおける国の結びつきについて，難民受け入れ問題の解決方法を異なる立場から検討する実践から考察した．各地域の課題の考察にあたり，多様な立場・視点から考えさせて自分との関わりに気づかせ，当事者意識を高めること．地域性をもとに，どのような立場から解決方法を考える必要があるかを理解させることをもとに，「身近な地域」の学習で地域性をふまえて課題解決を考える学習を行うことの重要性を指摘している．

このような中学校の「世界の諸地域」の学習が「地理総合」C「持続可能な地域づくりと私たち」の学習で「空間的な相互作用や地域などに着目して，生活圏の課題を地域調査等の探究活動を通じて解明し，持続可能な地域づくりのために必要な取り組みを多面的に考察・構想・表現する」ことに結び付くと考える．

## Ⅲ　高等学校地理Bの実践

2018年に行った高校3年生地理Bにおけるヨーロッパの学習を第3表に示す．地理Bにおいてもヨーロッパの統合と分裂は重要な主題である．地域の特色や課題の把握にとどまらず，地球的課題や持続可能な社会づくりに結び付けた考察となるよう授業計画を立案した．

中学校の学習を基礎的な知識として世界史，公民分野の学習を結び付けて，より多面的，多角的な視点からヨーロッパの理解を深めることに留意した．履修者は8名で少人数であること

第３表　2018年度　地理B　ヨーロッパ学習内容一覧

| 時 | 学習テーマ | 学習課題・探究テーマ |
|---|---|---|
| 1 | 位置と地域区分 | ヨーロッパをとらえる視点・ヨーロッパの多様性と共通性<br>東西冷戦終結後の中欧の復活に注目した地域区分 |
| | 自然環境 | 緯度帯と気候・地形と気候 |
| 2 | 自然環境と農業の特色 | 西岸海洋性気候と混合農業．地中海性気候と地中海式農業 |
| | 農業と生活文化 | 農耕技術の発展，衣食住の地域性 |
| 3 | ヨーロッパの食文化の源流を探る | 麦，豚，ジャガイモの歴史と食文化 |
| 4 | EUの農業政策と農業の変化 | 加盟国の農業の保護と食料自給。新規加盟国の農業<br>農産物生産の専門化　オランダのトマト農場の動画視聴 |
| 5 | 鉱工業の変化 | 産業革命期の工業，重工業三角地帯から青いバナナへ |
| | 工業地域と産業の再編成 | 中欧の再生．東ヨーロッパへの工場進出<br>イタリアの国内地域格差，歴史の古い工業地域の再生と先端産業<br>伝統工芸と高級ブランド |
| 6 | 自然エネルギー再生可能エネルギーの利用 | 環境問題のはじまり　酸性雨と国境を越えた協力<br>地球温暖化対策．自然エネルギーの開発，利用．環境大国ドイツ |
| 7 | フライブルクの環境政策 | フライブルク市の取り組みについて調査 |
| 8 | 文化の源流と異文化の受け入れ | 民族，言語，宗教の分布 |
| 9 | ヨーロッパの文化の基盤を考える | ケルトの文化，ヨーロッパ文化への影響，日本文化との比較 |
| 10 | 異文化との接触，受け入れ | EU域外からの異文化，イスラームをどのように受け入れるか<br>移民，難民の受け入れとEU加盟国への影響<br>イギリスのEU脱退との関連，難民に関する新聞記事からの考察 |
| 11 | EU統合と都市，地域の変化，課題 | 地域の再編成と開発，経済格差，外交，貿易 |
| EUの外交，通商政策についての調査・まとめのレポート作成<br>①欧州理事会，EU外務・安全保障上級代表について．②4か国との関係（日本EPA締結，ロシア，中国，アメリカ合衆国）<br>③EUの地球環境問題，開発援助，平和構築の取り組み．④訪れてみたいEU加盟国を一つあげる．理由を三つあげる． | | |

を生かして生徒の興味・関心がある地域について調査し，関心が高かったヨーロッパの地域研究を取り上げた．主体的な学習となるように探究の視点と基礎知識の確認の指導を行い，授業内の発表，レポートにより学習内容の理解と探究の成果を確認した．

## １．ヨーロッパ地誌の学習における三つの視点と学習活動

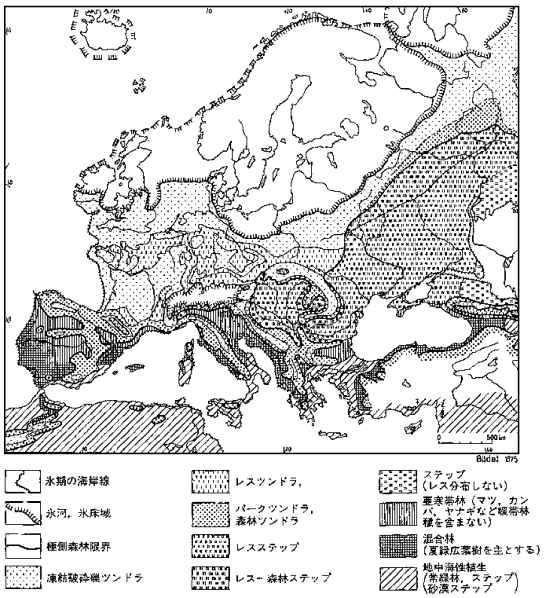
本実践では三つの視点からヨーロッパの地域性と共通性，EU 加盟国拡大による地域の変容，世界におけるEUについて理解を深めることを目的とした．三つの視点は次のとおりである．

### 1）自然と人々の暮らし，農業との関連性からの視点―自然環境の生い立ちから考える―

現在の農業地域の分布やEU 統合のもとでの農業の変化を考える上で，基盤となるヨーロッパの自然環境の生い立ちに目を向けた．

ヨーロッパの自然環境と農業の関係は，おもに西岸海洋性気候と地中海性気候という二種類の温帯気候と関連付けて説明される．地形についてはケスタ地形とアルプス山脈，山岳氷河とフィヨルドが頻出するが，小麦の栽培地域，酪農が盛んな地域などと関連付けて分布の理由を説明するには情報が少ない．ヨーロッパの地形や土壌，植生の分布には第四紀の気候変動が大きな影響を及ぼしている（第２図）．

第Ⅱ章で触れたフィヨルドについても成因が説明できる．フィヨルドはスカンディナヴィア半島だけでなく，目と鼻の先のスコットランドやアイスランドにも分布するが教員が指摘しなければ，ほとんどの生徒は気づかない．北アメリカ大陸やグリーンランド，さらに南半球のフィヨルドの分布から気候変動や人々の暮らしとの関りをより深く考察できる．高緯度で冷涼，降水量が少ない気候条件だけでなく，レス




第２図　最終氷期のヨーロッパにおける気候帯と植生
（Büdel. J. 平川訳（1985）『気候地理学』より）

が堆積する平原での小麦栽培，氷床の侵食により土壌が薄く養分が乏しい土地での酪農など気候と土壌や地形の成り立ちを関連付けてヨーロッパの農業の成り立ちを考える視点を示した．

第四紀の気候変動や自然環境の変化は現在の人間の生活に直結しているにも関わらず，教科書では地形の成因に言及せず，カタログ的な地形の記載が多い．自然環境の学習は地学との連携が考えられるが，地学の教科書では第四紀についてはわずかしか触れられておらず，地理学の自然地理分野が重要な役割を担うという指摘がある（植木2017）．

また，大陸の地形を日本と比較して，規模の違い，平野の成因などに注目して特色をとらえた．河川は長大かつ緩やかな勾配で流量の季節変化が小さいことがヨーロッパの運河の発達や産業に深く関わることを確認した．

さらに，農業と関連して食文化の源流について学習した．生徒はヨーロッパの食文化を美食の文化ととらえていることが多い．しかし，ヨーロッパの自然環境のもとでは農作物だけでは十分な栄養を摂取できず，不足分を油脂で補うことが必要であった．さらに南アメリカ大陸からもたらされたジャガイモやトウモロコシによって食料事情が改善して人口が増加した地域である（加賀美2019b）．生徒のイメージを揺さぶってヨーロッパをとらえる視点を増やした．

自然環境に基づいた農業がEUの共通農業政策の補助金制度により変化した様子について新規加盟国と農業生産の専門化をテーマに，東ヨーロッパの小規模農家とオランダの大規模な企業的園芸農業の事例を比較した．また，食糧自給と自国の農業の保護の在り方について日本と比較した．

**2）歴史と文化からの視点―歴史分野との連携―**

文化や歴史を掘り下げ重層的な成り立ちをとらえた．ヨーロッパの文化はゲルマン，ラテン，スラブの三つの民族とキリスト教の三つの宗派の分布を関連付けて説明され，ヨーロッパの地域性を把握する上で重要である．

一方で，EU統合で大きな課題となっているのも個性豊かな地域性である．国境を越えて分布する民族や，統合の中で地域の独自性を保とうとする人々の存在を知ることは「統合の課題」やイギリスのEU離脱の背景を深く分析することにもつながる．本実践ではヨーロッパの多様性を考える事例として，ケルトの文化をとりあげた．ケルトの文化が伝わる地域は現在ではヨーロッパの西縁部に分布しており，独自の言語が用いられている．（木村2018）．ケルトの文化が色濃く残る地域の楽器であるスコットランドのバグパイプ，アイルランドのイーリアンパイプス，スペイン（ガリシア）のガイタの分布から民族の歴史や文化の地域性を考察した[3]．ケルトの存在を知ることはヨーロッパの中にあ

る異文化の存在に気づき，外国人労働者・移民・難民という異文化を持った人々の受け入れを考える視点にもなる．また，イギリス（イングランド）とアイルランドの関係やスコットランドの分離独立運動を語る上でも必要な知識である．歴史分野の学習と関連してローマ帝国の拡大によってもたらされた「共通の文化」にも目を向けた．産業革命以降の近現代史は，工業化の進展，戦争と国民国家の成立，植民地拡大，二つの世界大戦，東西冷戦などがEUに深く関わり，歴史分野と関連付けてとらえる視点は重要である．東西冷戦の終結はヨーロッパの結節点としての「中欧」の復活と東ヨーロッパの加盟国増加による経済格差の拡大をもたらし地域の再編成を考える上でも重要である．「中欧」を版図としたハプスブルク帝国の学習と関連付けて現在につながる民族問題や産業の立地を考える視点となる．また，植民地の拡大や二つの世界大戦，東西冷戦はEUが抱える移民，難民問題の発端であり，問題の根深さと解決の困難さを考える上でも必要であろう．

さらに，産業革命以来の工業化，都市化の進展から工業地域の立地条件，産業構造の変化と工業地域の再生統合による東ヨーロッパへの工場進出と西ヨーロッパへの人口移動を比較した．

### 3）EUのしくみと政策からの視点―公民分野との連携―

EUという地域共同体が一つの国家のようにEU域内の産業を守りつつ外交，貿易について各国と交渉し条約を締結することを公民分野の政治経済と関連付けることができる．また，加盟国の増加による経済格差の拡大で，立場の異なる多くの国の意見をEUとしてまとめることの困難さについて考察する．

EUは地球的な課題や国際貢献（途上国支援や平和維持活動）にも積極的である．地球的な課題の取り組みの発端には工業化による公害の発生がある．国境を越えた取り組みと再生可能エネルギーの利用を様ざまなレベルで実行している事例から持続可能な社会づくりのためのSDGsの取り組みについても考察した．旧植民地との関係は移民，難民の受け入れや途上国支援とも深く関わる．地理的な空間の結びつき，歴史的経緯をふまえて多面的，多角的な探究を行った．

具体的には，EUの組織，しくみについての調査を行い，移民・難民問題に関してヨーロッパの難民，アメリカ合衆国のトランプ政権による厳しい移民政策，日本の在留外国人・技能実習生についての新聞記事をもとに移民・難民問題について取り組みや考え方を考察した．

外交・通商政策について，日本とはEPA締結直後であったこと[4]，アメリカ合衆国はトランプ政権のアメリカ第一主義への対応，ロシア連邦とは天然ガスパイプライン建設やウクライナ情勢をふまえて，中国は一帯一路政策と経済成長をふまえて取り上げた．

地球環境問題と持続可能な社会づくりについては，身近な生活圏のスケールとしてドイツのフライブルク市の取り組みについて8つのテーマを分担して調査した．さらにEUの地球規模の取り組みを調査し，日本の状況と比較した．

最後に開発援助，平和構築の取り組みからEU統合の理念である平和を守ることを確認した．

## 2学習課題の生徒のコメント

学習のまとめレポートの一部を第4表に示す．

## 3学習の評価

三つの視点からの探究した生徒のヨーロッパの理解について分析する．

### 1）自然と人々の暮らし，農業との関連性

自然環境の条件に基づいた農業地域の分布に

第４表　2018年度　地理Bヨーロッパ　レポートの生徒コメント

| |
|---|
| 1）移民・難民問題について |
| 新聞記事一覧：EUの難民問題について：朝日新聞2018年6月14日天声人語，朝日新聞2018年6月15日天声人語，難民船の拒否伊・仏亀裂，朝日新聞2018年6月16日夕刊　EU難民制度改革で一致，朝日新聞2018年6月25日朝刊　難民欧州再び亀裂 |
| アメリカ合衆国の移民政策について：朝日新聞2018年6月16日朝刊　移民の子2000人親と引き離し |
| 日本の外国人政策について：朝日新聞2018年6月16日朝刊　在留外国人管理も強化 |
| コメント：難民問題は難民の出身国と受け入れ先の国だけの問題ではなく，世界的な問題であることの自覚が必要．難民が多く発生している国の生活水準をあげたり，戦争を終わらせたりなど，根本的な問題を解消するところにも注力すべき．「労働力とだけ考え，人間として見ていなかったからだ」．私たち一人一人も問題の根本の解決に直接関わることはできなくても，現状を受け止めて真摯に向き合い，世論として国に反映させていくべき．日本も移民の受け入れという問題を他人事として考えてはいけない．「持続可能な移民政策の立案」が必要．・EU全体の難民問題が浮き彫り． |
| 2）フライブルク市の調査テーマ一覧 |
| 1交通政策，2緑に囲まれた街づくり，3建築物，4ごみ処理，5エネルギー政策，6市民の啓発と環境教育，7森林と水の保全，8自然を活用した余暇活動 |
| 3）EUまとめレポートより |
| ＊平和構築：かつては敵国同士であった国々が共に平和を目指すというのは，よほど強い信念がないと実現できない．「武力衝突のリスクの早期判別」や「根本原因などの紛争状況に対する理解の向上」，「紛争を意識した対外援助の立案」などで紛争を予防．<br>＊開発援助：EUは発展途上国に対し物質的な支援のみならず，国のその後につながっていくような支援をしている．EU は加盟をしようとしている「加盟申請国」や EU の近隣諸国にも援助をしている．近隣諸国の政治，経済，社会というあらゆる側面での改革を行い，制度を整備し，平和や安定を目的としている．<br>＊地球環境問題：EUは温室効果ガスの排出量削減において世界を先導している．街単位で自然エネルギーの普及に力を入れている．<br>＊全体を通して：EUが行っているさまざまな取り組みをみて，EUが単なる経済活動における利便のためのグループではなく，地球上のさまざまな問題解決に取り組んでいる組織なのだとわかった．いままでは加盟国間の関税の撤廃や国民の移動の自由など，経済をより活発にする側面で効果を発揮していると思っていた．しかし実際には，EUは一つの影響力をもつ組織として様々な活動を行っている共同体であり，EUと加盟国は強い結束力をもち，地球問題に対して責任感のある共同体なのだと感じた． |

ついて自然の歴史をふまえた理解が得られた．社会の変化に対応した農業の変容について東ヨーロッパの新規加盟国とオランダの事例を比較することでEUの政策を検討できた．食料自給率の比較から食の安全を含めて今後の日本と世界の食料安定供給について関心を高められた．

### 2）歴史と文化を見る目

ケルトについて生徒はほとんど知らなかったが，ハロウィーンや妖精などをきっかけに現在に受け継がれている地域独自の文化の存在から，地域性や分離・独立運動について考える視点を広げた．また，アイルランドのジャガイモ飢饉とアメリカ合衆国への移民やイギリスの地域性に対する理解が深まった．

工業地域の分布の変化や東西の経済格差，民族問題について事象の原因をヨーロッパの歴史を遡って検討し理解を深めEU 統合の難しさや分裂の危機が生じる理由を多面的に考察できた．

### 3）EUのしくみと政策を見る目

EUのしくみの調査をもとにEUの理念や目的を確認し，移民・難民問題，地球環境問題，平和構築，援助について，EUの取り組みについて理解を深めた．難民問題の現状を把握し，地球的課題として難民を生じさせないための根本的な国際協力の在り方に気づけた．フライブルク市の環境政策からSDGsの実践について自分たちの生活と比較しながら地球温暖化抑制につながる行動を検討した．また，主要国との通商・貿易関係の分析から日本を含めたEUの外交政策の理解を深めた．

以上の学習からヨーロッパの地域性と共通性，EU 加盟国拡大による地域の変容，世界におけるEUについて歴史分野，公民分野の学習を生かして多面的，多角的な分析を行いヨーロッパの理解を深められた．

課題として，次の点があげられる．イギリスのEU 離脱の理由の一つである各国が主張する

独自性を守るという視点からの分析が，地域の文化的特性をあげることに留まってしまった．経済的な結びつきから見たEU非加盟国で高い経済力を持つスイスやノルウェーについてEUとの関係の考察ができていない．また，外国人の加盟各国での生活や異文化の受け入れについての調査や，長年にわたり加盟を申請しているトルコとの関係や今後のEUと世界の在り方を描く課題の設定が十分にできなかった．

新学習指導要領において「地理探究」の内容の取扱いの例が，次のように示されている．

> 「なぜ，ヨーロッパで分裂と統合が見られるのだろうか」といった問いを立てて，EU域内の経済的な地域格差，政治的動向，民族・宗教などの諸事象を有機的に関連付けて考察するような学習活動が考えられる。このような学習活動を通して，移民などに関わる民族・宗教的な対立や不平等などが，国際社会において人類全体で取り組まなければならない地球的課題であり，持続可能な開発に向けた取組であることとも結び付けて考察することが大切である。

生徒のコメントから学習テーマを通じて，中学での学習，高等学校での地理，歴史，公民の学習を関連付けてヨーロッパの姿を描き出せたと考える．

## Ⅳ 「地理総合」におけるヨーロッパ

2022年度から履修が開始される「地理総合」におけるヨーロッパの学習について検討する．碓井（2018）は「地理総合」設立の背景，経緯と地理学習における役割について述べている．

中・高等学校における地誌学習のつながりについて，中学校で「世界の諸地域」で州ごとに学習したことをふまえて，「地理総合」のB（1）生活文化の多様性と国際理解で「世界の人々の特色ある生活文化」を選んで設定し，事例地域を網羅的に取り扱って繰り返しにならないこと．「地理探究」B（2）現代社会の諸地域の学習とも重複しないよう留意することが学習指導要領に明記されている（濱野2020）．「地理総合」の履修開始を目前に，授業モデルの提示や研究開発学校での実践報告が行われている．飯塚（2021）は，内容A「地図や地理情報システムでとらえる現代社会」に位置付けて，「地図から考える国々の結びつき」という主題についてEU加盟国の変遷を理解し，統合への歴史的経緯，地域の変容，経済的・政治的統合プロセスを読み取る．さらに，シェンゲン協定に注目して難民問題の理解を深めることに発展させることを提案している．

高木（2014）は研究開発学校での「地理基礎」の実践において，温帯の気候と人間の活動の単元で東ヨーロッパを事例として，EU加盟以来増加している日本企業の進出の要因を考察し，グローバル化 が進む世界を主題とした主題学習を展開した．高木（2020）は「地理総合」における主題学習のテーマ設定の重要性，「地理探究」とのつながりをふまえた事例地域の扱いの留意点を指摘している．「地理総合」は地球的課題の考察を深めるために事例地域を設定する科目であることに留意して，ヨーロッパを事例地域として扱う地理的課題として「酸性雨」を取り上げる場合，次のような提案をしている．内容B「国際理解と国際協力」1）生活文化の多様性と国際理解の「生活文化の多様性から理解する現代社会」で環境条件と人間の営みの関わりに着目した地理的課題として，「酸性雨の影響はどのように広がるのだろうか」という問いを立てて事例地域としてヨーロッパと中国を比較して考察する．さらに，「地理探究」

への発展的な学習の可能性として偏西風がヨーロッパと中国でどのような影響を及ぼしているか，東西ヨーロッパの地域的特色の違いやアメリカ合衆国の酸性雨に関心を持つ生徒の登場を想定している．

本稿では中項目（2）地球的課題と国際協力で「難民問題」を考察する事例地域としてヨーロッパを取り上げることを検討した．ヨーロッパでは1990年代はユーゴスラヴィアの紛争で多くの難民が発生した．2000年代になると西アジア，北アフリカからの難民が急増し，EUの難民受け入れの政策にも大きな影響を与えた（内藤2020，墓田2016）．難民となった人々の出身国である北アフリカや西アジアの紛争や貧困の原因にはヨーロッパ諸国による植民地支配や勢力争いなどの歴史的経緯が大きく関わる．EU加盟国間の立場の違いから対応に差が生じ，EUの課題が難民の受け入れからも浮き彫りになった[5]．市民の間でも難民の受け入れをめぐって国内の意見が二分し，難民の増加以前から存在した移民，外国人，異文化を持つ人々に対する排他的な考えを持つ人も顕在化している[6]．

ヨーロッパから世界の難民問題に展開し，難民，外国人など異文化をもった人々の受け入れについて中項目（1）「生活文化の多様性から理解する現代社会の学習」をふまえて国際協力の在り方を主題とした学習が設定できる．前掲の荒井（2018）で報告された中学校の実践例では，EU加盟国の姿勢とシリア難民の資料をもとにドイツの難民受け入れに対する賛否両方の立場からEUの課題を考察した．

「地理総合」で難民問題を取り上げるにあたり，EU加盟国の難民受け入れ状況，受け入れた難民に対する支援や保護の現状の把握と比較だけでなく国ごとに違いが生じる背景を外国人受け入れの歴史，とくにイスラームを信仰する人々との関係に注目する．あわせてEUの経済格差や地域性に注目して考察する．

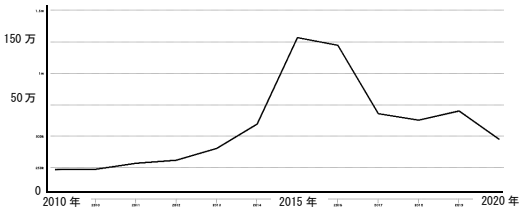
難民の立場からは，難民となった原因のできごと，ヨーロッパを目指す理由，移住先での生活状況と課題，今後に期することに注目し多文化共生社会の在り方，難民問題の解決に向けて多面的・多角的な視点から探究したい．導入としてヨーロッパ各国の外国人人口（第5表）と難民受け入れ人数の推移（第3図）を提示する．GISを利用して難民の出身国と受け入れ国を地図化することも試みたい（伊藤2019）．

2000年代のヨーロッパの難民をめぐる情勢をまとめた第4図を作成した．ダイヤモンドラ

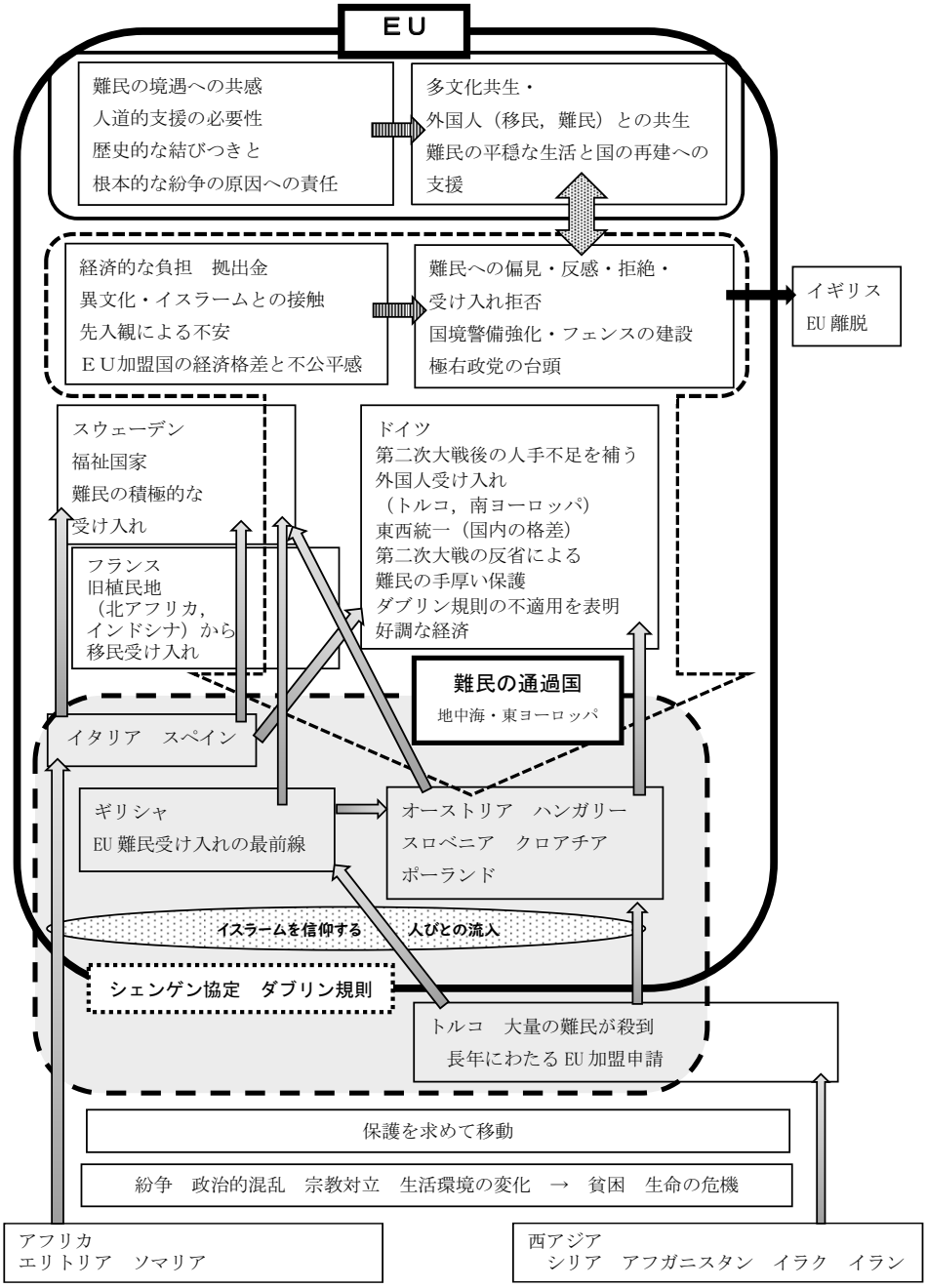
**第5表　ヨーロッパにおける外国生まれの人口が多い上位10か国と各国の移民受け入れ人数（2019年）**

| 順位 | | 人口（人） | 外国生まれの人口（人） | 外国生まれ人口の割合（%） | 受け入れた移民の総数（人） |
|---|---|---|---|---|---|
| | EU28か国（2013年～2020年） | 513,093,556 | 55,798,315 | 11 | 3,771,959 |
| 1 | ドイツ | 83,019,213 | 14,879,635 | 18 | 886,341 |
| 2 | イギリス** | 66,647,112 | 9,469,015 | 14 | 680,906 |
| 3 | フランス | 67,177,636 | 8,428,660 | 13 | 385,591 |
| 4 | スペイン | 46,937,060 | 6,538,961 | 14 | 750,480 |
| 5 | イタリア | 59,816,673 | 6,069,000 | 10 | 332,778 |
| 6 | スイス* | 8,544,527 | 2,469,381 | 29 | 145,129 |
| 7 | オランダ | 17,282,163 | 2,298,705 | 13 | 215,756 |
| 8 | ベルギー | 11,455,519 | 1,968,060 | 17 | 150,006 |
| 9 | スウェーデン | 10,230,185 | 1,954,065 | 19 | 115,805 |
| 10 | オーストリア | 8,858,775 | 1,722,833 | 19 | 109,167 |

*EU非加盟国．**2019年の統計にはイギリスがEUに含まれる．Eurostatより筆者作成




**第3図　2010年～2020年におけるEU難民受け入れ人数の推移（Eurostatより）**
https://ec.europa.eu/eurostat/databrowser/view/tps00191/default/line?lang=en




第４図　ヨーロッパの難民をめぐるEUの状況（筆者作成）

ンキングも用いて緊急性を要する取り組みから長期的な課題を整理し，具体的な取り組みについて方向性を検討したい．Eurostatには難民がヨーロッパ社会で生活するための取り組みに関する指標も掲載されており，受け入れ各国の状況を考える手がかりが得られる．

ヨーロッパの難民問題から世界各地の難民問題に視野を広げ，日本の難民，外国人の受け入れについて展開し，内容C「持続可能な地域づくりと私たち」における自分たちの生活圏で難民や外国人とともに暮らす社会の在り方の探究に結び付く．難民となった人々の人権問題として公民分野の主題としての展開も考えられる．難民問題の解決には，意見の対立や解決策が新たな課題を生じさせる困難が伴う．問題の構造を明らかにし，将来予測を検討する「システムアプローチ」を用いた学習内容のまとめも積極的に導入し（地理教育システムアプローチ研究会2021），自らを難民の立場において自分事とすることで，現実的な取り組みが見えてくる．開発教育研究会（2000）が取り上げた難民問題が，世界の場所を変えて繰り返されていることが残念である．苦しい立場に置かれた人々について学び，よりよい社会の担い手が育まれることを期待したい．

大野・竹内（2021）において竹内は地理総合の実践課題として次の2点を挙げている．1学習対象とする地球規模の諸課題や地域課題の解決に向けた学習過程の構想．合意形成，解決できなかった問題を次の単元や地理探究，歴史や公民の学習へと継続・深化させる．2生徒の世界観（世界認識）をどのように保証するのか．主題学習で構成される地理総合では地域を総体としてとらえる地誌的視点が弱くなりがちとなる．地理総合のカリキュラムの中に地誌的視点を組み込むことが必要．

1については，難民問題においても解決への合意形成や解決方法を導き出すのは容易ではない．理想論を並べただけで満足したり，現実の厳しさに徒労感を感じたりして単元を終えるのではなく，難民が生じる原因となる紛争や気候変動による食料不足などから，持続可能な社会づくりに向けて考えを深めさせたい．

2については，主題について事例をもとに議論する際に，前提となる事例地域の知識が必要となる．その際，知識の羅列にならないよう注意が必要である．地域性を理解しないままに議論を行うと，一面的な見方から事象をとらえることとなり，生徒が偏った世界観を持つ危険性があると述べている．また，地域の選定にあたり対照的な地域と類似的な地域を比較する取り上げ方や，中学校で日本と関わりの深い「大国」を中心に学習し，高校でそれ以外の国を扱う（荒井2019）ことを視野に入れたカリキュラム構成の検討も必要である．

## V　おわりに

小学校から連続する地理の学習で育成すべき人間像として，碓井編（2018）において井田は第1に「より一層深い世界観を持った人間」．第2に知識を活用して「国内，世界で貢献できる人間」．第3に「世界と日本・地域の将来を考える人間」を挙げている．このうち，「より一層深い世界観を持った人間」は地理を学習することで，生活経験だけでは得られない世界観を持つことができる．地域のスケールをふまえ地理的思考（見方・考え方）に基づいて，環境，国際理解，地域開発を考えられる人材を育成することで，より一層深い世界観を持った人間に迫っていけると述べている．

国際化が進んだ現在でも，子どもたちが生活経験として世界を認識することは限定的である．地理の授業を通じて世界を学ぶことが子どもたちの世界観の形成に果たす役割は大きい．国際社会との窓口が一気に広がった明治時代の日本では，世界の情報を広く共有することが急務であった．現在につながる国際理解の始まりとして福澤が著した『世界国盡（くにづくし）』がある．『世界国盡』は教科書にも採用され世界地誌の普及

に大きな役割を果たした（齋藤2017）.『三の巻　欧羅巴洲』より冒頭部を示す.

> 「欧羅巴」 土地は「亜細亜」に連なれど
> その堺目を尋れば　東の方に「宇良留山」
> 山より出ずる「宇良留河」 末は「裏海」
> に流れ込み 「甲賀巣山」の麓より 「黒
> 海」越えて 「地中海」「阿非利加洲」と
> 相対し 「治部良留多留」の瀬戸過ぎて
> 西は一面「阿多羅海」. 洲の南北一千里
> 東西一千四百余里. 内に列なる四十九の
> 国の大小強弱も　時勢に由りて浮き沈み
> 「魯西亜」「普魯士」「墺地利」 英と仏との
> 五か国は　当時日の出の五大国. 土地の広
> 袤を較ぶれば　五大洲の末なれど　狭き国
> 土に空地なく　人民恒の産を得て　富国強
> 兵天下一　文明開化の中心と　名のみにあ
> らずその実は　人の教えの行き届き　得誼
> を修め知を開き　文学技芸美を尽くし　都
> 鄙の差別なく　諸方に建つる学問所　幾千
> 万の数知らず.[7]

現在は，個人で容易に世界の様子を知ることができる．入手した情報から世界の一部を知ったことに満足するのではなく，知識をもとに自分がどのように行動するかが問われる．知識を結び付け地域の成り立ちを理解し，身近な地域と世界各地を比較して地域性をとらえる見方・考え方を働かせた地誌の学習が必要である．齋藤（2017）は，1868年当時と現在を比較し，変化の様子を発見・調査し，子どもたちが自分の「世界国尽」を作ることを提案している．子どもたちは世界について旺盛な好奇心を持っている．自分たちが生きている世界を理解し，生きていく世界の在り方を考える地誌の学習を心掛けたい.

本稿では，中学・高校でのヨーロッパ地誌の実践を振り返り，中高の連携および「地理総合」「地理探究」への継続・発展の可能性や課題について検討した．ヨーロッパは空間的相互依存作用を「EU 統合と課題」という主題から検討する好適な地域である．ヨーロッパの理解には共通性と個性豊かな地域の独自性に着目した考察が必要である．中学校ではヨーロッパ州としての特色や課題の理解を中心とし，高校では国や地域の特色や課題を掘り下げて探究する学習が工夫できる.「地理総合」では中学で学習した「統合の課題」をふまえて，国家間の結びつきや地球的課題に対する国境を越えた協力や課題を考察する事例として取り上げることが想定できる.

小学校から高等学校まで連続する社会科，地理を通じて，さまざまなスケールの空間と時間軸から地域の特色をとらえ，地球に暮らすすべての人々を尊重し，持続可能な社会づくりに自分の力を役立てようとする姿勢を育みたい.

## 謝辞

本稿執筆にあたり，慶應義塾一貫教育校専任教員国内長期研修として受け入れてくださった加賀美雅弘先生をはじめ地理学分野の先生方のご支援に心より感謝申し上げる.

## 注

1）学年のおよそ1／4，各クラス10名程度が海外での生活経験を持つ.
2）地理Bは理系学部以外に進学を希望する生徒の日本史Bとの必須選択となっている.
3）NHK　BS　地球テレビ　エル・ムンド「魅惑のスペインケルトの世界～日本スペイン国交400周年～」2013年09月15日放送
4）日本とEUのEPAは 2019年2月1日に発効.

https://www.meTi.go.jp/policy/TrAde_policy/epA/epA/EU/EU_epA.hTml　2021年10月21日最終閲覧

5）2021年9月26日のドイツ連邦議会総選挙は社会民主党が第1党，メルケル首相が所属するキリスト教民主・社会同盟は第2党となった．https://www3.nhk.or.jp/news/hTml/20210927/k10013278271000.hTml 2021年10月21日最終閲覧

6）ヨーロッパでは，ロマの人々が古くから差別や迫害を受けてきた．加賀美（2019a）

7）原典は慶應義塾大学メディアセンターデジタルコレクション　デジタルで読む福沢諭吉世界国盡．三で閲覧．https://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja/fukuzawa/a13/36　2021年10月21日最終閲覧

## 引用文献


青柳章一（1990）：ヨーロッパアルプスをたずねて．学芸地理44，pp.37-42.

荒井正剛（2018）：「世界の諸地域」学習における価値認識に関わる学習指導について．東京学芸大学紀要　人文社会科学系Ⅱ　69，pp.1-11.

荒井正剛（2019）：『地理授業づくり入門』．古今書院，150p.

荒井正剛（2021）：新学習指導要領とアメリカ合衆国の授業．地理66-7，pp.9-14.

飯塚和幸（2021）：地図から考える国々の結びつき．『地域と世界をつなぐ「地理総合」の授業』．pp.50-55.

井田仁康（2021）：『高校社会「地理総合」の授業を創る』．明治図書出版，163p.

伊藤智明（2019）『地図化すると世界の動きが見えてくる』．ベレ出版，174p.

岩田修二編（2018）：『実践　統合自然地理学』．古今書院，240p.

植木岳雪（2017）：高等学校における地理教育と第四紀学．第四紀研究56（5），pp.195-206.

碓井照子編（2018）：『「地理総合」ではじまる地理教育―持続可能な社会づくりをめざして―』．古今書院，200p.

大谷誠一（2021）：「統合」と「分離」でヨーロッパ州を探究する．社会科教育, No. 750, pp.56-59.

大野新・竹内裕一（2021）：『地域と世界をつなぐ「地理総合」の授業』．大月書店，241p.

開発教育研究会編（2000）：『新しい開発教育の進め方Ⅱ難民』．古今書院，119p.

加賀美雅弘（2011）：『世界地誌シリーズ3　EU』．朝倉書店，152p.

加賀美雅弘（2014）：拡大するEUに着目したヨーロッパ地域理解の視角．新地理，62-3, pp.78-85.

加賀美雅弘・荒井正剛（2018）：『景観写真で読み解く地理』．古今書院，106p.

加賀美雅弘（2019a）：『世界地誌シリーズ11　ヨーロッパ』．朝倉書店，173p.

加賀美雅弘（2019b）：『食で読み解くヨーロッパ―地理研究の現場から―』．朝倉書店, 165p.

加賀美雅弘（2020）：BrexitからみるEU/ヨーロッパ理解．新地理68-2，pp.62-65.

金澤翔平（2020）：「地域を見る目」を育てるヨーロッパ州の授業．社会科教育57-1, pp.56-59.

木村正俊編（2018）：『ケルトを知るための65章』．明石書店，377p.

日下部和広（2020）：世界の諸地域　ヨーロッパ州　「対話」から深い学びへ．社会科教育57-8，pp.62-65.

久保哲成（2017）：高校地理Bヨーロッパ地誌でのアクティブラーニング型授業の実践：グループワークとジグゾー学習による協同学習

の試み．兵庫地理，62，pp.127-125.
小泉武栄（1993）：『日本の山はなぜ美しい』．古今書院，228p.
坂田元丈　黒川明子（2020）：「地理的な見方・考え方」を働かせる中学校社会科学習の単元開発―「ルクセンブルクの国民一人あたりのGDP」からヨーロッパの空間相互依存作用を捉える―．富山大学人間発達科学実践総合センター紀要　教育実践研究No.15，pp.1-11.
齋藤秀彦（2017）：『福沢諭吉の『世界国尽』で世界を学ぶ』．ミネルヴァ書房，135p.
ジョーダン．T．G．著，山本正三，石井英也訳（1989）：『ヨーロッパ文化―その形成と文化構造―』．大明堂，500p.
高木　優（2014）：高等学校「地理基礎」における主題的相互展開学習の開発と授業実践―神戸大学付属中等教育学校の取り組みを事例に―．新地理62-3，pp.94-99.
高木　優（2020）：地理総合での地球的課題を主題とした学習が地理探究での地誌学習にどのようにつながるか．新地理68-2，pp.73-87.
地理教育システムアプローチ研究会編（2021）：『システム思考で地理を学ぶ』．古今書院，128p.
内藤正典（2020）：『イスラームからヨーロッパをみる』，岩波書店，266p.
墓田　桂（2016）：『難民問題』．中央公論社，246p.
濱野　清（2020）：新学習指導要領における地誌学習の枠組み．新地理68-2，pp.84-87.
Büdel. J.著，平川一臣訳（1985）：『気候地形学』．古今書院，392p.
福澤諭吉（1868）：『世界国盡　三の巻　欧羅巴洲』．慶應義塾．https://iiif.liB.keio.Ac.jp/FKZ/F7-A13-03/pdf/F7-A13-03.pdf
藤田　晋（2008）：戦後史の視点を取り入れたヨーロッパ地誌の授業展開．学芸地理，63，pp.34-44.
松浦直裕（2014）：ヨーロッパ理解をどのように進めるか．新地理62-3，pp.86-93.
矢ケ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）：『地誌学概論（第2版）』．朝倉書店，174p.

## Learning Topography of Europe: Cooperation and Development on Junior and Senior Highschool Geography

**AOYAGI Shoichi***

**Keywords**：Europe, EU, Junior and Senior High School

***Keio Shonan Fujisawa junior and Senior High School**